

# Slovenia Monthly March 2018

## スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2018年4月3日



### ～3月の主なポイント～

- 政治：** ツェラル首相が辞任，5月27日又は6月3日に解散総選挙実施の見通し
- 経済：** 政府系シンクタンク，2018年の経済成長率予測値を5.1%に上方修正
- インフラ：** 最高裁判所，コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設経費調達法案の是非を問う国民投票のやり直しを指示，選挙管理委員会は5月13日の再投票実施を決定
- 外政：** 政府，クロアチアとの国境問題で，欧州委に書簡を送付し，欧州司法裁への提訴を検討
- 軍事：** 政府，英国でのロシア元情報部員襲撃事件を受け，駐露スロベニア大使の召還を決定
- 軍事：** パホル大統領，スロベニア軍の体制強化の重要性を強調

## 政治

### 【ツェラル首相の辞任】

#### ●ツェラル首相の辞任及び国政選挙の見通し

14日夜の閣議後，ツェラル首相は，同日，最高裁判所が，現政権が進めてきたコペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業に関する法案施行の是非を問う国民投票を無効と判断したことは「らくだの背を折った最後の一本の藁」である，スロベニアの前向きな発展を阻止したい者達により，同計画は更なる打撃を受けた。自分は，そのような物語の一部になるつもりはない」と述べ，国民議会に対し，辞表を提出するとの立場を表明した。



(写真：24ur.com)

### ＜辞意表明の理由＞

ツェラル首相は，15日付日刊紙「Delo」のインタビューにおいて，辞任理由につき以下の通り説明した。  
「自分は，国政選挙を数ヶ月後に控え，国家に対する重圧をいかにして軽減し，略奪や完全な膠着状態に陥ることを回避するにはどうしたらよいか自問し，経済発展を阻害せずに，正常な状態で選挙を迎えるためには，自分が辞任するしかないと判断し，今回辞任を決定した。現代中央党(SMC)の連立パートナーである両党(社会民主党(SD)及び年金者党(DESUS))を含む各党は，人事も含め，国政選挙の機会をいかに自己の利益とするかを考え始めていた。自分は，「もし我々がこのままで選挙を迎えるのであれば，過去3年半に精一杯努力してきたこと全てが無駄になる」と自分に語りかけた。」

### ＜各政党党首の発言＞

#### ブルグレス国民議会議長(現代中央党(SMC)：与党)

「ツェラル首相の決断を支持し，同首相の辞任理由に同意する。連立政権のジュニアパートナー(社会民主党(SD)及び年金者党(DeSUS))を含む，事実上全ての人々が，あらゆる可能・不可能な方法で，

スロベニアの発展を更に妨げようとしている状況で、辞任は唯一の責任ある決断である。」

### ジダン副首相兼農林食糧相(社会民主党(SD:与党)党首)

「今週は、公共セクターのストライキ、コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業の完成模型を巡るスキャンダル、最高裁判所による同路線建設法案の是非を問う国民投票の無効判断等、政府にとり困難な週であった。これらの問題において、連立政権のジュニアパートナーは非難されるべきではない。ツェラル首相の辞任は、関係省庁のみならず、連立パートナーにも事前に知らされていなかったため、自分も非常に驚いた。」

### エリヤヴェツ副首相兼外相(年金者党(DeSUS:与党)党首)

「ツェラル首相の辞任には驚いておらず、今後、同首相が信頼性を維持していくのは困難であろう。首相は、「タオルを投げた」のである。本来責任を取るべき関係閣僚ではなく、同首相自身が責任を取ったのであり、ツェラル保健相やガシュペルシッチ・インフラ相がかなり前に踏むべきであったステップを、同首相自身が踏んだのである。」

### ヤンシャ・民主党(SDS:野党)党首

「ツェラル首相の動きには驚いていない。今後、政権の任期を短縮させ、可能な限りの混乱(Chaos)を引き起こし、この機会に乗じてツェラル首相に対する支持票を他の候補者へ移すような動きや、あたかもツェラル政権のような「操り人形政権」とは違うとの印象を有権者に与えるような、新たな候補者を擁立する動きさえ考えられるであろう。」

### ●当地主要紙等の論評(15日付)

**日刊紙「Delo」:** ツェラル首相が辞任したことは論理的であり、(第2鉄道路線建設事業の推進において)同政権が敗北を認めたことを意味。スロベニアの経済危機からの脱却及び堅調な経済成長は、政府のマクロ経済政策の成果でもあると評価する一方で、一部の閣僚が、政治的なノウハウに欠け、ステークホルダーとの対話が難航する場面が多く見られ、それが政権の足を引っ張った。

**世論調査会社「Valicon」社代表:** 首相による決断は非常に論理的であり、他の政党の反応から判断しても、勇気あり非常に賢明なもの。今次決定は、他

の政党との関係における現代中央党(SMC)の立ち位置に大きな変化をもたらし、「誰からも好かれていない組織」(政府を指す)の運営から解放されたSMCは、現在よりも票を伸ばす。そもそも経済が好調なのにも拘わらず、国民が(政府に対し)不満なのはパラドックスである。

**経済紙「Finance」:** ツェラル首相の辞任は、新リュブリャナ銀行(NLB)の民営化、クロアチアとの間の国境線画定問題、公共セクターの労働組合との間の賃上げ交渉、第2鉄道路線建設事業等の大きな課題への対応から逃れる便利な口実であり、首相がこれらの厄介な問題の対応から免れ、特に「NLBを売却した者として」記憶されないことは、国政選挙におけるSMCのより肯定的な結果に繋がるであろう。

### ●首相辞任を受けた、各社による世論調査の結果

19日、世論調査会社「Vox Populi」社が行った調査によれば、主要政党の中で、シャレツ・カムニク市長率いる「Marjan Sarec List」が12.2%で首位を維持、第2位は社会民主党(SD)で11.7%、第3位は民主党(SDS)で10.6%となり、これら3政党は2月の世論調査と比較して支持を落とした。一方で、現代中央党(SMC)は2月の5.2%から支持を大幅に回復して8.1%となり第4位となった。2月の調査で第4であった左派(Left)は5.1%と支持率を落とした。

26日、「POP TV」が行った政党支持率に関する世論調査の結果が発表され、「Marjan Sarec List」が14.6%で首位を維持した。SDSが前回の調査より若干支持を拡大し10.8%、SDが8.8%で引き続き第3位を維持し、SMCが前回のよりも0.8%支持を拡大し第4位5.8%、左派「The left」が4.2%と続いた。

### <首相辞意表明後の動き、総選挙実施の見通し>

3月14日: ツェラル首相辞意を表明。

3月20日: 国民議会、ツェラル首相辞表を正式受理。

3月27日: 国民議会がパホル大統領による首相候補指名を行わない旨の通告を正式受理。

4月12日: 国民議会による首相候補の指名有無が判明する見込み。首相候補が指名されなかった場合、議会解散。

4月14日(見込み): パホル大統領による国民議会選挙実施日の決定。

5月27日もしくは6月3日: 国民議会選挙実施。

(議会解散後は、40日以上、2か月以内に総選挙を実施。選挙は通常日曜日に実施される。)

## 〈内政一般〉

### ●ツェラル首相、現代中央党(SMC)党首に再選【10日】

連立与党現代中央党(SMC)は、党大会を開催し、ツェラル首相が党首2期目を務めることを確認した。2014年に設立したSMCは、6月の議会総選挙の前に、選挙にて党首を選出するとしていたが、候補者はツェラル氏のみで、大会に出席した党員218名全員から支持を受け再選した。なお、同大会で、SMCは、公正、グリーン、健康、安全等を重視した「Better for All」と題した、今後4年間で実施予定の172の取組を含む選挙プログラムを発表した。

### ●スロベニア政府、首相辞任を受け、公共セクター労組との交渉を停止【19日】

公共セクター労働組合との賃金交渉の政府首席交渉官を務めるコズロヴィッチ政府官房長官は、ツェラル首相の辞任を受け、労組側との交渉を停止することを決定した。同長官は、16の労組を率いるポチヴァウシェク氏が、交渉継続を要求したのに対し、「内閣が完全な権限を有する最後の日に、公共財政に影響を与えるような如何なる合意も締結することは無責任である」と述べた。これに対し、労組側は政府に対し、1週間以内に合意を確認しない場合には、国政選挙において、確実に、低い労働者賃金及びこれまで合意された事項が選挙戦の焦点となるようにすると警告した。

## 【外政】

### 〈英国でのロシア人二重スパイ襲撃事件〉

### ●英国でのロシア人二重スパイ襲撃事件を受けたスロベニア国内の動き【23～27日】

ツェラル首相は、ソールズベリー事件にロシアが関与したことは極めて高いとした英国政府の評価をEU加盟国の指導者が支持したことを受け、「誰が本当に責任を有し、如何に今後対応していくかについては、国際的な機関の調査を待つ必要がある」との考えを示した。同首相は、「EU首脳間で、情報機関、公衆衛生及びその他の関係機関の調査に関する情報共有が行われており、それは、ロシアが今回の攻撃の背後にある高い可能性を示している」と述べた。他方、同首相は、スロベニア政府は現時点においてロシアの外交官の追放や、それに類似する措置をとることは検討していないと述べた。

27日、ホルヴァット国会外交政策委員会(Mr. Josef Horvat, 新スロベニアイニシアティブ(NSi: 右派))は、EU加盟国におけるロシア人外交官の追放

に関し、「スロベニアも、他のEU主要国のように行動すべきであった」との立場を表明し、NSiは、本件につき審議を行うための特別会合を招集する予定であると述べた。

### ●スロベニア政府、駐露スロベニア大使の召還を決定【29日】

スロベニア政府は駐露スロベニア大使を、英国における元ロシア情報機関員襲撃事件に関する協議のために召還することを決定した。一方、エリヤヴェツ外相は、「自分は、ロシア人外交官の追放には反対する旨主張し、閣議でも、現時点において誰が襲撃犯であるか特定出来ていないことに鑑み、かかる措置は厳格すぎるとの評価で全会一致した」と述べた。また、ツェラル首相は、「大使召還は、EU及びNATOによる措置に対するスロベニアの追加的な反応である。より厳格な措置は適切ではなく、大使召還はよい決定である。スロベニアはEU及びNATOの加盟国であるが、それは盲目に特定の意見や評価に従わなければならないという意味ではない。」と述べた。



(写真: 24ur.com)(2016年7月、プーチン大統領のスロベニア訪問の際に、パホル大統領と)

## 〈外政一般〉

### ●エリヤヴェツ外相によるオーストリア(ケルンテン州)・イタリアでの選挙結果に対する評価【5日】

エリヤヴェツ外相は、4日に実施されたイタリア及びオーストリア・ケルンテン州における選挙結果が、両国におけるスロベニア系少数民族にポジティブな影響を与えることを希望すると述べ、特に、社会民主党が50%に迫る得票率を確保したケルンテン州議会選挙の結果につき非常に満足していると評価した。一方、スロベニア系のタティヤナ・ロイツ氏が上院に議席を確保したイタリア国政選挙につき同外相は、

右派政党や、政策や政権をとる意思のない政党が選挙に勝利する傾向が出てきており、それは困難な政治状況を生み出すことは必至である。今後、如何にして組閣が進むのか注視していきたい」と述べた。

### ●政府、欧州司法裁でのクロアチアの提訴に関する欧州委に対する書簡の発出を閣議決定【14日】

スロベニア政府は、閣議において、クロアチアが最終裁定を履行していないのは、EU条約の違反であるとの内容の書簡を発出することを支持した。本件書簡に基づき、欧州委が必要な措置を執らず、クロアチアが最終裁定の履行を拒否し続ける場合には、スロベニアは単独で、欧州司法裁判所に提訴することとなる。ツェラル首相は、欧州委が、書簡の受領から3ヶ月以内に仲裁裁定の履行を促すためにクロアチアに圧力を行使しない場合には、スロベニア政府は、欧州司法裁判所に提訴するとし、政府は、国政選挙により政権が交代した場合にも、次期政権に提訴を義務付ける内容の閣議決定を行うとの方針を示した。

### ●パホル大統領の訪独【13～14日】

ドイツを訪問したパホル大統領は、シュタインマイヤ一大統領と会談し、EUの将来及びクロアチアとの国境線問題確定等につき意見交換を行った。会談後、パホル大統領は、「ドイツは、事実上、国際社会の全メンバーと同様に、仲裁裁判所が既に決定を下し、国境線は画定されたことを良く理解している。ドイツは、スロベニアが慎重に行動し、クロアチアとの間で最終的な詳細を詰めていくことを期待している」と述べた。また、同大統領は、ドイツ連邦議会においてシヨイブレ議長と会談し、両者は、二国間関係は良好であり、ビジネス、科学、教育及びEUの枠組みで緊密な協力関係を有しているとの認識で一致した。

### ●エリヤヴェツ外相のコソボ訪問【13日】

エリヤヴェツ外相は、コソボを訪問し、パツォーリ・コソボ外相との間で、二国間協力強化及び同国のEU及びNATO加盟等につき意見交換を行った。エリヤヴェツ外相は、コソボに対する支援継続を強調した上で、同国がEU査証自由化に向けた改革を進めていくことを要請した。また、両外相は、地域情勢及び地域協力につき意見交換を行い、スロベニアは、ブルドー・ブリウニ・プロセス及び現在議長を務めるSEECP(南東欧協力プロセス)の枠組みで、地域協力の促進に努力していると述べた。今回の訪問に合わせ、両国は、経済協力委員会の会合を開催した。

## スロベニアに迫る！②

### 「欧州におけるブロックチェーン技術の中心地を目指すスロベニア」

IT分野の発展に力を入れるスロベニアの究極的な目標は「欧州のシリコンバレー」になることですが、ブロックチェーン技術の登場でそれが実現する可能性が出てきました。スロベニアには約50社の関連企業が存在し、人口比では欧州第一位の数値です。

代表的な企業としては、ビットコインのATM運営会社「Bitnik」社、分散型投資プラットフォーム「Iconomi」社、世界的な電子通貨の交換所「Bitstamp」社、革新的なデジタル音楽市場「Viberate」社等があります。



(クラン市のビットコイン記念碑、写真:Phys.org)

政府の戦略文書「デジタル・スロベニア2020」では、ブロックチェーン技術の法的地位を定めています。また、同戦略の履行促進のために、官民により構成される「スロベニア・デジタル連合(The Slovenia Digital Coalition)」が創設され、政府主導で「スロベニア・ブロックチェーン研究所(Blockchain Think Tank Slovenia)」も立ち上げられました。新規市場への参入及び投資誘致のために「南東欧ブロックチェーン連盟(Blockchain Alliance CEE)」も創設されています。

また、スロベニアではブロックチェーン技術に関する数多くの国際会議が開催されており、2018年4月には、第1回欧州ブロックチェーン・サミットが開催される予定です。

2018年3月には、多くのブロックチェーン技術関連企業が拠点を置く北西部のクラン市(Kranj)中心部のロータリーにおいて、「3FS」社及び「Bitstamp」社の財政支援により世界初となるブロックチェーン記念碑が建設されました。

### ●ミロシッチ外務副大臣の訪露【13～15日】

13日、ミロシッチ外務副大臣は、ロシアのサンクトペテルブルグを訪問し、ピリンバコフ・エルミタージュ美術館副館長と会談し、スロベニア国立博物館との間の交流展の開催につき意見交換を行った。また、同副大臣は、同市の代表と会談し、文化、経済及びスパツーリズムにおける協力につき意見交換を行った。外務省は、スロベニアは、5月に開催予定のサンクトペテルブルグ国際経済フォーラムに参加すると共に、本年夏にスロベニアにおいてサンクトペテルブルグ・デーが開催される旨発表した。

15日、同外務副大臣は、ニキフォロフ・ロシア通信メディア大臣等と会談し、ビジネスを中心とする二国間協力につき意見交換を行った。また、両者は、マリボル空港における、両国の国有郵便会社による、合同ロジスティクス・センター建設に向けた手続きにつき協議した他、サンクトペテルブルグとリュブリャナ間での直行航空便の開設は、ビジネス及び観光分野における更なる協力強化に繋がるとの意見で一致した。

### ●パホル大統領、プーチン・ロシア大統領の当選に祝意を伝達【20日】

パホル大統領は、プーチン大統領に対し、大統領選挙における再選を祝福すると共に、世界の平和と安定及び包括的な発展のために、西側諸国とロシアとの間での信頼及び協力強化が進むことに期待を表明した。また、同大統領は、プーチン大統領の友人として、こうした進展は、プーチン大統領の慎重な行動に大きく依存しているとの立場を表明した。

### ●スロベニア政府、ロシアでの大戦時のスロベニア人戦没兵士の記念碑建設を決定【21日】

スロベニア政府広報局は、第一次及び第二次大戦で戦没したスロベニア人兵士の追悼記念碑をロシア国内で建設することを決定した。同記念碑は、スロベニア政府の予算で建設される予定であり、場所はモスクワの戦勝記念公園に決定された。

### ●モンテネグロ首相のスロベニア訪問【21日】

ツェラル首相は、スロベニアを訪問したマルコビッチ・モンテネグロ首相と会談し、両首相は、「両国の関係は極めて良好である。特に、モンテネグロにおけるスロベニア企業による投資は増加傾向にあり、二国間の貿易高も増加傾向にある」として経済関係の強化を歓迎した。また、両首脳は、最近発表されたEUの対西バルカン戦略を受けた、モンテネグロのEU加盟

についても意見交換を行い、ツェラル首相は、同国の加盟努力及びEU基金の支援で行われている支援プロジェクトに支持を表明した。

### ●政府法制局、パレスチナ国家承認問題は、管理内閣の権限外と判断【21日】

スロベニア政府法制局は、パレスチナの状態は、管理内閣の権限内ではなく、承認を提案する動議については、国政選挙を受けた完全な権限を有する新政権の発足を待つ必要があるとの見解を示した。また、法制局は、大きな財政的インプリケーションのある公共セクターの賃上げ交渉についても管理内閣の権限外であるとして、管理内閣は交渉を行うべきではないとの判断を示した。

### ●野党「左派」パレスチナの状態承認に向けた動議の国会での審議を要求【22日】

野党左派「The Left」は、パレスチナの状態承認問題につき、国民議会での緊急会合招集に必要な23名の署名獲得に成功した旨発表した。署名したのは、左派の所属議員全員の5名、与党年金者党(DESUS)の所属議員全員の11名、与党現代中央党(SMC)所属議員のうち5名及び無所属の議員1名で、左派は、一両日中にも緊急会合の招集を要請し、15日以内に開催されることとなる。他方、スロベニア政府法制局は、承認に向けた動議は、政府により発動されるべきで、管理内閣にはその権限はないとの見解を示している。

### ●パホル大統領のブルガリア訪問【26日】

ブルガリアを公式訪問したパホル大統領は、ラデフ・ブルガリア大統領と会談し、両国の関係は極めて良好であるが、経済分野において更なる関係強化の潜在性があるという認識で一致した。共同記者会見において両首脳は、ブルガリアとスロベニアは、EU及びNATOにおけるパートナー及び同盟国であるのみならず、歴史的経験と伝統を共有していると述べ、パホル大統領は、EUが困難な状況に直面している中で、議長国としてのブルガリアの貢献を賞賛した。

### 〈コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業〉

#### ●スロベニア政府、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業に対するEU基金の活用方法につきEUと協議【6日】

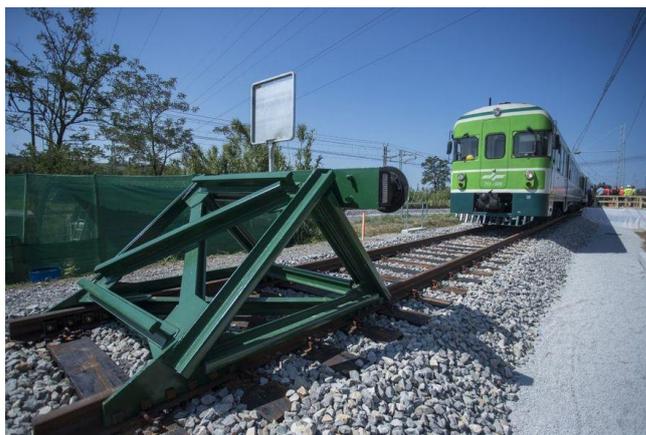
スロベニア政府は、第2鉄道路線建設事業建設法案を巡る訴訟の関係上、現時点において特定目的会社「2TDK」がEU基金による拠出対象とならないことから、拠出先をインフラ省傘下のインフラ庁に変更するよう欧州委に要請した。レーベン・インフラ省副大臣は、本事業へのハンガリーの参加に否定的なメディア及び政治勢力の圧力にハンガリー側は気分を害しており、政府はその他の選択肢も模索しなければならないとの考えを示した。また、かかる動きを踏まえ、政府は、欧州委との間で、欧州基金より確保した1億900万ユーロの資金拠出に関する合意の文言を「スロベニアとハンガリーによる拠出」から「スロベニアと他の欧州諸国からの拠出」に変更する方向で調整を行っている述べた。

#### ●最高裁判所、第2鉄道路線建設事業建設法案の施行にかかる国民投票の無効を決定【14日】

最高裁判所は、昨年9月に行われたコペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業法案の是非を問う国民投票前の政府側キャンペーンに対し、政府が国家予算より97,000ユーロを拠出したことは、同法案に沿って事業を進めたいとする政府側の主張への国民の支持を得るために国費を投入したことを意味し、右は違法であり、同法の発効には、国民投票を再度実施する必要があるとする1月31日の憲法裁判所の判断を追認した。

#### ●スロベニア政府、第2鉄道路線建設事業の準備経費としてEU基金より4430万ユーロの拠出を確保【21日】

スロベニア政府は、第2鉄道路線建設事業関連法案の施行一時停止を受け、建設資金として承認されたEU基金1億900万ユーロの拠出が凍結されたが、欧州委との交渉の結果、準備作業用の資金として配分される4430万ユーロについては拠出を得ることが可能となった旨発表した。他方、建設資金については、再び実施される同法の施行に関する国民投票の結果を踏まえて拠出が決定される。



(写真: 24ur.com)

#### ●選挙管理委員会、第2鉄道路線建設事業に関する第2回目の国民投票を5月13日に実施することを決定【27日】

スロベニア選挙管理委員会は、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設法案の施行の是非を問う第2回目の国民投票を5月13日に実施することを決定した。同委員会は、国民投票を国政選挙と同日に行うことが出来ない理由として、国政選挙の日程が現時点で確定していないことを挙げている。国民投票の実施を要求してきた市民団体の代表であるコヴァッチ氏は、同委員会の決定に憤慨し、憲法裁判所に提訴すると発言した。

#### ●インフラ庁、第2鉄道路線の完成予想模型の調達契約を破棄【27日】

ウェブポータル「24ur」によれば、インフラ庁は、不法に高額な値段で落札されたとして問題となっているコペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業の完成予想模型の契約を破棄した。報道によれば、模型の調達を落札した業者は、13万3000ユーロに上る落札額の半額以下の値段で、入札において競合相手であった業者に模型の作製を外注していたことが判明した。契約破棄の理由としてインフラ庁は、落札業者が、模型の作製を外注することを報告していなかったことを挙げている。

## 〈経済一般〉

### ●欧州委、スロベニア政府の経済政策を評価【7日】

欧州委は、ヨーロッパ・セメスターの冬季報告書を発表し、スロベニアは、マクロ経済不均衡是正手続を開始してから6年掛けて経済基盤を強化し、現在安定した経済環境の中、良き投資パートナーであるとして評価した。同報告書は、2016年にはGDP比78.5%へと減少したスロベニアの公的債務が、さらに減少し続け、2019年には、2015年に比較し10%減少し、72%を記録すると予測。また、経済成長による雇用の増加等々を評価する一方で、企業による設備投資等は増加しつつも、他のEU加盟国より増加幅が小さいと評価した。

### ●インフラ大臣、物流分野でのUAEとの協力につき協議【9日】

ガシュペルシッチ・インフラ大臣は、UAEの港湾管理会社「DP World」社長のスルタン・アフメド・ビン・スレイマン氏と会談し、海運及び航空輸送分野での協力強化につき意見交換を行い、同大臣は、中東欧市場へのゲートウェーとしてのコペル港の優位性を同社長に説明した。航空輸送分野では、現在、LCCの「FlyDubai」とリュブリャナ空港を所有する「Fraport」社との間で、ドバイ・リュブリャナ間の直行便開設に向けた協議を行われており、2019年中の就航が目標となっている。

### ●スロベニア国鉄、50両の新規車両購入に向けスイス企業と交渉【10日】

スロベニア国鉄のメス社長は、同社が調達予定の50両の旅客用車両のうち、本年末迄にスイスのスタッドラ社との間で25両の車両購入契約の締結を目指し、その一部は来年にも納入される見通しであると述べた。また、同社長によれば、新たに導入される車両にはスロベニアで初となる2階建て車両も含まれる予定となっている。

### ●家電大手ゴレニエ社の買収に向け中国企業がデューデリジェンス実施【14日】

家電大手のゴレニエ社は、同社の株式の過半数の売却先として名乗りを上げている中国企業3社に対し、デューデリジェンス（資産評価）を行うことを許可し、5月8日を応札期限として設定した。経済紙「Finance」によれば、3社のうち2社は中国の家電大手の「Haier」、「Hefei Meiling」であり、残りの1社は「Midea」社の可能性が高いとされている。

### ●政府系シンクタンク、2018年度の経済成長率の予測値を5.1%に上方修正【15日】

マクロ経済研究所(IMAD)は、本年度のGDP成長率の予測値を3.9%から5.1%に、来年度についても3.2%から3.8%に上方修正した。なお、2020年の成長率については3.2%と予測されている。ヴァスレIMAD所長は、「現在の経済成長は、欧州における主要な経済パートナー国及びスロベニア国内の非常に好調な経済状況によるものであり、かかるトレンドは本年も継続する」との見通しを示している。また、同所長は、ツェラル首相の辞任は、短期的に、スロベニアのマクロ経済情勢に大きな影響を及ぼすことはないと分析している。



### ●スロベニア、オーストリア、ハンガリー、電気・自動運転車の共同開発に向けMOU締結【23日】

スロベニア、オーストリア及びハンガリーの3ヶ国は、電気自動車、コネクティッド・カー、自動運転自動車等の国境を越えた開発を行うためのMOUに署名した。同MOUは、新たなモバイル技術及び自動車技術の拡大促進に向けた、3ヶ国における自動運転地域の創設に向けた条件の整備を求めると共に、ベストプラクティス、科学協力、パイロットプロジェクト及び法制度のハーモニゼーションを奨励する内容となっている。

### ●スロベニア、独立後初めて財政黒字を記録【30日】

スロベニア政府統計局は、2017年に、スロベニアは1991年に独立して以来、初めて財政黒字を達成した旨を発表した。統計局は、2017年の歳入は歳出を、GDPの0.03%にあたる1300万ユーロ上回り、これは堅調な経済成長の結果であるとしている。エルマン財務大臣は、「スロベニア政府が財政均衡を達成したのは喜ばしいが、引き続き、責任のある公共財政の管理が必要とされている」旨述べた。

## 軍事・治安情勢

### ●パホル大統領、スロベニア軍の体制強化の必要性を強調【7日】

スロベニア軍がNATOによる戦闘準備評価に落第したことを受け招集された国民議会臨時会合にて、パホル大統領は最高司令官としてスピーチを行った。同大統領は、軍強化のための資金増強及び国家安全保障制度の抜本的な改革のための法整備を訴えると共に、今後10年間で、GDPに対する国防費の割合を1.8%から2.5%まで引き上げることを提案した。また、大統領は、「軍は必要だが絶対不可欠なものではない」といった感情が形成され、軍は存在するが、戦力のないものとなった。国家安全保障に対するリスクが上昇し続け、人口構成や労働市場が変化する中、省庁は一丸となって取組み、戦闘に即応できる軍を整備する必要がある」と述べた。

### ●ジュニダル内相、オーストリアによる国境管理の延長に反対【8日】

EU司法内務委員会に参加したジュニダル・内務大臣は、本年5月まで延長されているオーストリアによる国境審査に反対する旨改めて強調した。同大臣は、スロベニアは、シェンゲン対外国境を適切に管理しており、昨年、スロベニアからオーストリアへ不法入国を理由に送還された人数は39名である等、規模の観点からも国境審査延長は妥当でないと説明し、審査強化によって、市民間の協力及び経済への悪影響が出ていると指摘した。他方、キクル・オーストリア内相は、審査延長は必要であると訴えており、近日中に両国間で協議がなされる予定。

## 社会・文化・スポーツ

### ●リュブリャナ大学、スキージャンプのポータブル計測システムを開発【16日】

リュブリャナ大学コンピュータ・情報科学学部の技術者により、コンピュータの視覚に基づいてスキージャンプの長さを測定するシステムが開発された。現在、ワールドカップでは、より高価で技術的にも複雑なビデオによる距離測定システムが使用されているが、その他の大会では、ビデオ等を利用せずに審査員により測定されている。今回開発されたポータブルコンピュータに接続されたカメラを使用することにより、現在使用されている測定システムにくらべ、より低価格でより正確な計測が可能となる。今後は、更なる改善を加えつつ、まずは、審査員によりマニュアルで測

定を行っている大会から徐々にシステムの導入を目指して行く。

### ●スロベニア人の幸福度、欧州平均を上回る【18日】

20日の国際幸福の日(International Day of Happiness)に先立って、政府統計局により、スロベニア人は、欧州の平均的な人々より“幸福”を感じているというデータ(欧州統計局によるデータに基づく)が発表された。最も幸福を感じている人々が多いのは、フィンランド(66%)であり、最も幸福を感じている人が少ないのはギリシャ(25%)であった。スロベニアは54%と欧州平均の48%を上回った。政府統計局のデータによると、スロベニアでは、学生は雇用者や失業者、年金受給者よりも生活に満足しており、また教育水準が高い人々ほど幸福を感じている。

### スロベニアに迫る！⑤

#### 平昌パラリンピックでのスロベニア選手の活躍

3月9日から18日までの10日間に及んで開催された12回目の平昌冬期パラリンピックには、49カ国から567名の選手らを迎え、過去最大のパラリンピックとなりました。パラリンピック初出場のイェルネイ・スリヴニク(Jernej Slivnik, 17歳)パラアルペンスキー選手はスロベニア唯一の代表選手として、座位カテゴリの回転(Slalom)と大回転(Giant Slalom)の2種目に出場し、更なる活躍への大きな一歩となりました。



座位カテゴリの男子大回転には、各国から総勢37名の選手が出場。スリヴニク選手は残念ながら1本目で転倒し2本目への出場は叶いませんでしたが、座位・男子回転種目では、12位という、これまでのパラリンピックでスロベニア選手による最高記録(1998年長野での、Srečo Kos選手の15位)を更新し、昨年12月に怪我に見舞われたにも関わらず、素晴らしい結果を残しました。

## 発見！スロベニア

### もう一つの日本大使館、「サン・マーティン・ホテル」

皆さんは、スロベニアには2つの日本大使館があるのをご存じでしょうか？もちろん、通常の日本大使館は首都リュブリャナにあります。実はもう一つ、西部イタリア国境に接し、ワインの産地として有名なゴリシュカ・ブルダ(Goriska Brda)に、「芸術日本大使館(Art Embassy of Japan)」があります。



(写真: Goriska Brda(Twitter))

「サン・マーティン・ホテル(San Martin Hotel)」は同市のシュマルトゥノ(Šmartno)村の丘に位置し、かつての学校校舎を改装して作られた部屋数20室のブティックホテルで、部屋からは、イタリア方面に広がるワイン畑やオリーブ園が一望できます。同ホテルは、2017年以来、同市で開催されている国際アートイベント「Art Circle/Art Embassy」において、日本人アーティストのホストとなっており、玄関には「Art Embassy of Japan」の表札が掲げられています。



(写真: San Martin Hotel)

ゴリシュカ・ブルダ産のワインの素晴らしさは、これま

でのマンスリーでも紹介してきていますが、オーナー夫妻のヴェスナ(Vesna)とボグダン(Bogdan)は、ワイン製造に豊富な経験を有し、ソムリエ資格を持っており、勿論、同ホテルでは地域が誇る素晴らしいワインの数々を堪能することが出来ます。



(写真: 当館撮影)

また、レストランでは、敷地内の菜園で栽培された新鮮な野菜、ハーブや自家製のオリーブオイル、地元産の良質な肉や、漁師から直接調達したアドリア海の魚介類をふんだんに使った季節感溢れる料理が楽しめます。同ホテルには、ヴァレリオ(Valerio Lutman)とデニス(Denis Ferizovič)の2人の新進気鋭の若手シェフによる創作料理を楽しむために、国外からも多くの人々が訪れています。



(写真: San Martin Hotel)

同ホテルの館内では、日本人アーティストの作品が至るところに展示されており、日本とスロベニアとの芸術交流の拠点となりつつある同ホテルは、きっと皆さんを暖かく歓迎してくれるでしょう。同ホテルは、ベネチアからも車で2時間弱の距離にあり、イタリア観光もかねて、滞在するのもよいかもしれません。

San Martin Hotel: <http://www.sanmartin.si/>

## 在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: [info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

Web: [http://www.si.emb-japan.go.jp/website\\_jp/index\\_j.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html)

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

[info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

### ★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

### ★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。1月号では鹿児島県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

[http://www.si.emb-japan.go.jp/Living\\_in\\_Japan.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html)

### 【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

### 【広報文化班からのお知らせ】

●RTVスロベニアにて日本番組放映中！詳しくは <http://4d.rtv slo.si/program> をご覧下さい。

・Fascinating Japan! Fascinating Iwate!(夢・見る・ピノキオ):

- 日本の様々な自然・文化・観光・食を美しい映像とともに紹介する番組

- 毎週月曜日～木曜日19:15頃から ※開始時間は日によって異なります

- チャンネル: TV Slovenija 2

・Japanese Cuisine(京・ごはんたべ):

- 京都の地をメインに和食文化に迫るグルメ番組

- 4月28日土曜日16:00より 第1話 放送開始予定

- チャンネル: TV Slovenija 1

●Art Circle 展示会

スロベニアや日本、その他数カ国からのアーティストがゴリシュカ・ブルダ地方に集まり、1週間かけて制作された作品が Vila Vipolže に展示されます。

-会場: Vila Vipolže (Vipolže 29, 5212 Dobrovo)

-期間: 4月21日から9月まで

-入場料: 無料